

質問と回答

質問	回答
兵庫県にはため池が数多くある。太陽光発電に有効活用できないか。	ため池ソーラーは兵庫県内でも多く淡路島等で多く事例が出ている。大学や市民がお金を出し合って設置する事例もある。
稲は一年草であり、多年草化して温暖化の被害を抑えることができるか。	稲の専門家ではないが、多年草化もよいかと思う一方、研究や普及に時間がかかるのではないかと思う。先ほど紹介したソーラーシェアリングは作物にとって暑すぎる日光を避ける効果もあり、活用が進むことが期待される。
アメリカと中国の温室効果ガス排出量が多いがこれらの国の動向は。	アメリカはパリ協定に復帰している。また、企業においても、GAFAのうち1社を除きRE100に加盟しており、脱炭素や再エネ100%化を進めていく見込である。中国は再エネ電力比率は日本よりも高く、脱炭素化を重要な産業と考え、再エネとEVに注力している。
電気自動車の普及が進む等ヨーロッパでは基盤が整備されていると思うが、日本においては2050年ゼロカーボンを目指すことが可能か。	日本は太陽光、風、森林、海流、地熱があり、再エネポテンシャルが高い。他方、例えばデンマークは、総合的に日本ほど再エネのポテンシャルはないが、風力発電で電力の7割を賄っている。色々な団体や研究機関が日本の脱炭素化へのシナリオを発表しているが、元々持っている技術力も発揮すれば十分可能だと考える。
友人や家族と気候変動の話をするときに、気候変動というと固い話題で、他人事という空気になってしまうが、自分事としてもらうためにどのようなアプローチをとればよいか。	その人が元々関心をもっているテーマから話をしていくのがよいと思う。脱炭素だけを目的とせず、健康や農業、交通、まちづくりなどのテーマから話して関心を持ってもらうのが良いと思う。
世帯あたりCO2排出量の円グラフ(P24)の右下で、5.3%というのは何か。	キッチン（厨房）である。
中国で問題になっている健康被害とは。	石炭火力発電所から排出される大気汚染物質である。都市部の住民

	<p>はPM2.5等を常時吸い続けることになるので、石炭を使わない発電所に変えようとしている。</p>
<p>日本は電源における火力発電の割合が高いので、電気自動車に乗っても脱炭素に貢献していないのではないか。</p>	<p>電気自動車はガソリン車と比較して、走行時においてエネルギーを動力に変換するエネルギー効率が高く、CO<sub>2</sub>排出量は少ない。電気自動車の利用が増え、その上で、再生可能エネルギー由来の電力の割合が増えることがよいと思う。</p>
<p>なぜ日本には地熱のポテンシャルがあるのに普及していないのか。</p>	<p>実際にコストを掛けて調査をしなければ事業可能性がわからないことが課題の一つ。なお、ポテンシャル的にはそこまで大きくない見込み。温泉との兼ね合いもある。地熱がある地域は自然公園内に所在する場合もあり、開発行為そのものが進まないという状況もある。</p>
<p>脱炭素を進める上で原子力発電をどのように位置づけるとよいか。</p>	<p>原子力発電は発電時に温室効果ガスを出さないが、日本では温暖化対策を目的として原子力発電を進めた結果、東日本大震災後まで温室効果ガス排出量は増え続けた。原子力発電は変動調整ができないため、温室効果ガスを排出する石炭火力と天然ガス火力を補完的に必要としたためであった。これから人口減少等によりエネルギー消費が減っていく中で、電気が余る時間帯に、再エネは出力の制限をしてすぐに止めることができる。原発は簡単に止められない。脱炭素社会に向けた電源の組み合わせを考えたときに、再エネを進めるのが良いというのが私の所属する団体の考えである。</p>
<p>水素の活用について伺いたい。</p>	<p>水素を何からつくるのかという点で、現状、日本では化石燃料から水素を取り出すか、水を電気分解するかの2つの手法をとっている。化石燃料から水素をつくる際に、製造過程でCO<sub>2</sub>が排出される。水の電気分解も再生可能エネルギー由来でないと脱炭素につながらな</p>

	い。再生可能エネルギーの生産を増やし、電気が余る時代が来た時に、余剰分で水素をつくるようになると脱炭素化が進む。
--	--

※RE100…企業が自らの事業の使用電力を100%再エネで賄うことを目指す国際的なイニシアティブであり、世界や日本の企業が参加している（環境省ホームページ「環境省RE100の取組」より）